

理事長の挨拶

日本神経化学のニューノーマル

小泉 修一

山梨大学医学部教授

新型コロナ禍のなか、研究、教育、診療、各種業務で非常に大変な毎日を送っていらっしゃると思います。英国でも米国でも、国のトップが新型コロナに感染し、何時、誰が感染しても不思議ではない状況になってきております。皆様も感染には十分にご留意され、またご本人、ご家族、ご友人、関係者で、感染された会員の皆様には、心からお見舞い申し上げるとともに、一日も早いご快復をお祈りいたします。

さて、このような大変な状況の中、第63回日本神経化学大会「議論で深める神経化学」は、大成功のうちに終了いたしました。63回の長い歴史のなかで初めてのWeb開催となり、その企画、準備、運営にかかるストレスや苦労は並大抵のものではなかったと思います。大会長の馬場広子先生を始め、実行委員・プログラム委員の諸先生方、また運営に奔走された先生方には、心から御礼申し上げます。さらに、大会に参加され、発表及び活発な議論をして頂いた先生方にも、深く感謝の意を表したいと思います。記録にも記憶にも残る大会になりました。

さて、新型コロナでバタバタしている中であっても、今期のスローガン「伝統の継承と改革」は着実に進んでおります。2年目の進捗をご報告いたします。

まず改革についての取り組みです。第一の取り組みは、法人格の取得です。これまでの任意団体から、一般社団法人日本神経化学会へと変身すべく、手続きが進行中です。法人格を取得することで、本会の社会的信用と活動の幅を強化することが可能となります。まずは法人化の骨格となる定

款が完成し、先日の総会で認めて頂きました。速やかに法人格を取得し、新しいスタートを切りたいと思います。

第二の取り組みは学会の透明性強化です。前理事長の和田先生が始められました「理事長だより」を引き継ぐと共に、今期はさらに「委員長だより」を追加し、より具体的な学会の活動をお知らせするような仕組みを作りました。すでに延べ8名の委員長の文書を配信しております。今まで余り知られていなかった具体的な委員会活動の様子が、会員の皆さんに実感をもって伝わるようになったことに加え、各委員長の研究や哲学についても知ることができ、期待していたよりもずっと大きな効果が得られていると思っております。引き続き各委員長には、色々とお願いをすることになると思いますが、どうぞご協力をお願い申し上げます。

第三は情報の収集です。HP上に目安箱を設置しました。理事長あてに意見、要望、苦情等が直接届きます。数はまだ少ないですが、少しずつ届いております。某行革大臣も早速同様の仕組みを作ったようですが、日本神経化学会が先行しております。うまく機能すればとても有効であると思っております。

このような試みの継続により、本学会を会員の皆さんにより良く、身近に感じて頂き、また意見が自由に言える、意見が届く学会になるよう、引き続き活動を続けていく所存であります。

一方、伝統の継承は、本学会のモットーである「分子・物質で疾患を明らかにする」「議論を尽くす」「若手を真剣に育成する」は今回の第63回日本

神経化学会大会においても、しっかり引き継がれていると思います。今回は特にWeb開催になったことにより、若手研究者育成セミナーの開催が非常に難しい状況になりましたが、馬場大会長、照沼若手育成委員会委員長、世話人の先生方、さらに実行委員の先生方のご尽力によりWebinarとして無事に開催にこぎ着けることができました。新しい形となりましたが、これまでとはひと味もふた味も違った若手研究者育成セミナーになったように思います。Webinarがベストと言うわけではありません。どんな状況下であっても、若手セミナーのモットーを伝えられる会を開催出来た、という事実が素晴らしいと思います。今後の発展に繋がる大きな一歩になったと思っています。

また、これまでの日本神経化学会のこと、また学会を支えてきてくださった先生方のことを皆さんに知っていただくこと、またそれらにより今後の日本神経化学会の在り方に思いを寄せていただくことを目的として「私と神経化学」の連載を開始しました。すでにご覧になられたかと思いますが、これまでに6名の先生方に素晴らしい文書をご寄稿いただいています。これまでの学会のこと

はもちろんです、先生方の研究者としての哲学や私たちに対するメッセージが力強く記された非常に読み応えのある文書であります。これまで本学会の理事長、大会長等を務められた先生方を中心にお願いしておりますが、お返事をいただけた先生から順番に掲載させていただいております。基本的には順不同です。今後なるべく多くの先生方にご寄稿いただきたいと考えておりますので、楽しみにしてください。また、原稿依頼が届きましたら、どうぞ思いの丈を綴って頂ければと思います。

新型コロナ禍により、研究、教育、診療はもとより、あらゆる日常が変化してしまいました。学会活動も、大会も大きく変わりました。この所謂ニューノーマルには、ストレスや息苦しさといったネガティブなイメージがつきまといがちですが、うまく利用することで大きなポジティブな効果を楽しめると思います。会員の皆様のご協力とアイデアで日本神経化学会の魅力的なニューノーマルを実現させていきたいと思っています。引き続き、ご協力をお願いいたします。